

第8回 これからの男性援助を考える

婚活中の女性の視点から考える

男性が婚活で成功する援助①

松本健輔 坊隆史

「私は普通の人でいいんです。条件は大卒で、年収は最低600万。身長は170以上。あとやさしくて尊敬できる人がいいです。」

結婚相談所で毎日のように女性会員が話す結婚相手への希望条件だ。彼女たちのが暗に伝えたいことはこうだ。「私は現実を分かっているので、無理な希望は言わない常識的な人なんです」

現代の男性たちは、婚活という戦場で『現実を分かっている』彼女たちの相対しなければならぬ。今回は結婚相談所の中の婚活という限定的な状況の中で見える物を材料に、男性支援を考えてみたい。そのために、本稿では、まず婚活の現状の整理と、女性側からみた婚活事情を記載し、次回それを元に男性の婚活、そして支援を考えていきたい。

1、婚活という市場がどうなっているのか。

婚活という言葉が山田ら(2008)によって作られてから、この言葉は定着し、結婚は自然にするものから努力して意識的にするものに変化しつつある。国勢調査(2010)によると、30歳から34歳の未婚率は男性が46.5%、女性で33.3%。35歳から34歳では、男性が34.6%、女性は22.4%となっている。これを多いととるか少ないととるかは別として、かなりの数の男女が結婚をせずに独身でいることが見て取れる。

図1 調査別に見た、夫婦が特定年齢までに会った割合。

夫妻が 出会った年齢	第9回調査 (1987年)	第10回調査 (1992年)	第11回調査 (1997年)	第12回調査 (2002年)	第13回調査 (2005年)	第14回調査 (2010年)
夫						
20歳までに	14.3 %	14.7	17.8	16.9	16.4	17.7
25歳までに	43.9	49.4	53.3	55.2	49.9	49.6
30歳までに	79.9	81.1	81.6	82.7	82.5	77.3
35歳までに	96.5	95.4	94.8	95.7	93.8	91.3
出会い中位数年齢	25.8 歳	25.1	24.5	24.1	25.0	25.1
妻						
20歳までに	27.8 %	26.4	27.9	25.3	23.2	24.4
25歳までに	71.5	72.4	71.8	68.0	63.7	57.4
30歳までに	94.5	94.3	93.6	90.8	89.7	82.6
35歳までに	98.8	99.1	98.9	98.7	97.9	95.4
出会い中位数年齢	22.3 歳	22.4	22.3	22.8	23.3	23.7

図1は第14回出生動向基本調査(2010)によるもので、7,847人の妻の年齢が50歳未満の夫婦を対象とした調査で、上記は其中で配偶者と出会った年齢を表している。

注目すべき点は35歳までに配偶者と出会った確率である。男性は91.3%、女性は95.4%と異常に高い数字を示している。そこから、35歳を超えて恋人のいない男女の結婚が非常に厳しい状況が見て取れる。それだけ婚活というのは難しい現実がある。統計的に見ていろいろな見方ができる数字ではあるが、ここでは結婚が難しい時代になったということだけ理解して欲しい。

多くの人は出会いさえあれば結婚できると考える。だから結婚相談所などのサービスを利用して、初めて現実を知りショックを受ける。出会いが無限のように存在しても、それは結婚とは直接結びつかないということをそこで知るのだ。それを証明するような数字も存在する。山田ら(2008)によると、結婚紹介サービス会員の一年以内の成婚率は7%から16%にすぎないという。また、交際相手のいない人が一年以内に結婚する確率は2~5%とされているという数字もあり、結婚情報サービスを利用することにより可能性が約二倍になっていることが見て取れる。つまり、サービスが悪いのではなく、出会うだけでは結婚はできない人の数が現代はあまりにも多いのだ。

2、希望条件を紐解く

ここで冒頭に紹介した女性の希望から、多くの女性が何を求めているか考えてみたい。多くの女性が尊敬という言葉と同時に学歴を口にする。「尊敬できる人がいい。だからせめて大学ぐらいでいて欲しい」と。彼女たちは実に現実を良く分かっている。高学歴を求めても競争が激しいからせめて大学卒をというわけだ。しかし、現実にはさらに厳しい。学校基本調査(2012)によると現在の大学進学率は男性で56%。つまり半分は大卒以外の人間がいるのだ。また、年収に関しては、婚活に関するあらゆる本で取り扱っている数字だが、山田(2002)の調査では、23歳から35歳で年収が600万円以上の男性は3.5%しかいないことが明らかにされている。ちなみに学校保健健康調査・運動能力調査(2011)によると、30歳から34歳の男性の平均は172センチである。ちなみに、30歳から34歳の平均に関しては他のどの世代よりこの年代が一番平均身長が高い。つまり、どの

年代を対象にしようと、これもまた170センチ以上と言った時点で多くの男性がそのふるいから落とされる計算になる。条件だけでほとんどの男性が残っていない中で、さらに性格、ルックスを求める。それがいかに難しい作業か分かって頂けたらだろうか。

さて、個々からは中身の部分に言及していきたい。小倉(2003)は、女子大生からのヒアリングから彼女たちの希望する「尊敬できる人」「夢を持った人」「やさしい人」の意味を翻訳している。尊敬できる人は、「高学歴」。夢を持った人は「勝ち組の男」。つまりは高収入または高収入の可能性のある人。そして「やさしい人」は、借金を頼まれて同情するやさしさではなく、家族のことを考えて断り、ゴミの日を覚えていて、黙ってゴミを出す優しさ、家族優先の思いや家事参加である。小倉の主張は既に10年近く前であるが、現代においてもとても的を射ている気がする。しかし、女子大生と現実的な婚活をしている女性の違いなのか、その主張にはやや不足しているように感じる。たとえば、彼女たちの求める尊敬は、暗に高学歴を意図していると主張しているが、それだけではない。婚活の現場では、高学歴、さらに高収入の相手を「尊敬できない」という理由で交際を断る場面をよく目にするからだ。

では、彼女たちが「尊敬」という言葉にこめた本当の希望はなんなのか。彼女たちに尊敬の意味を問うと、「常識を知っていて教えてほしい」、「自分より出来る部分があり引っ張ってほしい」と、その先にはリーダーシップ、そして自分より上であって欲しいとする願望が見え隠れする。ある女性に尊敬についてさらに突っ込んで聞いたところ以下のように答えた。「なんでもいいのです。一つ、仕事への情熱でもいいので持っていて欲しいのです。それがあただけですごく好きになれるのです。」ちなみに彼女は次のお見合いで鉄道オタクが嫌という理由でお見合いを断っていた。電車に対して誰よりも詳しく、そして教えてくれる彼は尊敬に値しなかったようだ。つまり、尊敬できる箇所は趣味ではだめのだ。

男女関係の中での尊敬ということを見えていくと、彼女たちから一つの共通点を見ることが出来る。「仕事への情熱」というキーワードだ。つまり、仕事を好きで頑張っている人が尊敬できる人となるのだ。考えてみたら当たり前なのかもしれない。これだけ世の中うつ病で休職したり、仕事を辞めてフリーターになる人で溢れている現在、もし夫がそうなってしまったらと思うのはごくごく普通の感性と言える。そういう意味でも尊敬という言葉は、今の高学歴、高年収だけでなく、将来的な安定的収入を可能な人を選定するということを暗に正当化する言葉とも言えるのかもしれない。

ここまで読んで、彼女たちは我が侘のように見えてくるが決してそうは言えない状況もある。なぜなら、彼女たちにとっては、それは当たり前、むしろ現実を知って妥協しているのだ。想像してほしい。多くの女性は学生時代に恋をする。その恋は目に映る沢山の男性の中からおそらく一番良いと思える人との恋だ。大卒の女性に関しては、まわりの多くは大卒だ。そして頑張って入った会社には、高学歴の上司や同僚がいる。たとえ、高卒で派遣であろうと、大企業に派遣されれば周りの男性は高学歴、高収入となる。そして彼らはやさしくしてくれる。綺麗だと褒めてくれる。その環境の中で生活していたら、男性への要求はどんどんあがっていく。さらに不倫などをしていたら問題は深刻だ。不倫をする男性の多くは俗にいう『いい男』の可能性が高い。それは経済的かもしれないし、精神的なところかもしれない。なぜなら、既婚者であるというマイナスを補うほど魅力があるわ

けだからだ。そしてさらにたちが悪いのは、彼らは結婚しているからこそその余裕がある。そこで、不倫相手と、結婚していない男性では比べるとどうしても不倫相手の方が良く見える場合が多い。多少誇張した説明になったが、女性達から婚活での相談を聞いていると、少なからず多くの女性達に当てはまるように感じる。

また、結婚と恋愛というステージの違いに女性は気づきにくい。美人であればちやほやされる。それは年齢に限らずだ。恋愛なら年齢は関係ない。でも結婚は違うと多くの男性が思っている。だからこそ、モテるが結婚はできないアラフォーが産まれる。そうやって産まれた彼女たちの願望を誰が責めることができるだろうか。

3、最後に

ここまで婚活の現状、女性側の婚活を見て来た。それを踏まえて次回男性の婚活、男性への援助を考えていきたいと思う。

引用文献

小倉知加子(2003)「結婚の条件」 朝日新聞社

厚生省(2010)「第14回出生動向調査」 国立社会保障・人口問題研究所
(<http://www.ipss.go.jp/>)(2012年8月現在)

総務省(2010)「平成22年国勢調査」 総務省統計局、政策統括官(統計基準担当)、統計研修所 Homepege(<http://www.stat.go.jp/index.htm>)(2012年8月現在)

山田昌弘・白河桃子(2008)「婚活」時代」 ディスカヴァー・トゥエンティワン